

2016年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、中高緯度では波列パターンが卓越した。スカンディナ비아半島からバレンツ海付近でブロッキング高気圧が発達し、アラスカでも明瞭な正偏差がみられた。ユーラシア大陸の中緯度帯からカムチャツカ半島付近にかけては負偏差が明瞭だった。偏西風は、中央アジアから日本にかけては平年と比べて北寄りを流れ、日本の東から太平洋中部では平年より強かった。帯状平均した東西風は、両半球ともに亜熱帯ジェット気流が平年と比べて強かった一方、60°N 付近では西風が弱かった。帯状平均した対流圏の気温は、50°N 付近及び40°S 付近で低温偏差となった他は概ね正偏差で、特に北極域で顕著だった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インド洋東部～インドネシア付近、ベンガル湾～南シナ海、太平洋の10°N～15°N 付近で活発、インド洋西・中部、太平洋赤道域で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬前半はインドネシア付近にみられたが、それ以後は不明瞭となった。対流圏下層では、北太平洋熱帯域の広い範囲で高気圧性循環偏差となった。対流圏上層をみると、東シナ海付近で高気圧性循環偏差がみられ、そこから北米にかけて波列パターンが明瞭となった。南方振動指数は-0.1だった。

世界の天候

2016年10月の世界の月平均気温偏差は+0.29°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、3番目に高い値となった。10月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.65°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

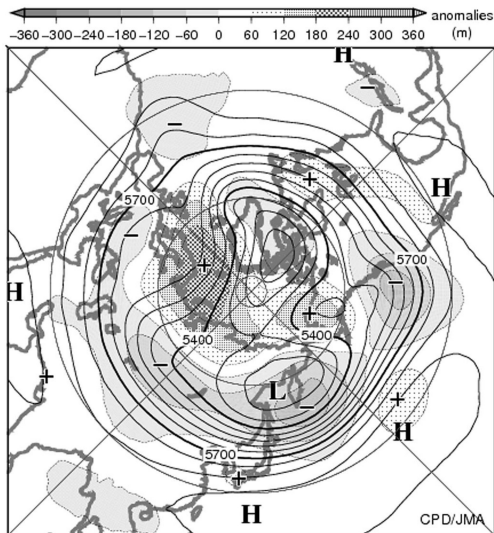
- 西日本～東南アジア北部で異常高温となった。
- 東シベリア南部，中央シベリア南部～中央アジア東部で異常低温となった。
- 米国東部～メキシコ及びその周辺で異常高温となり，米国南部で異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

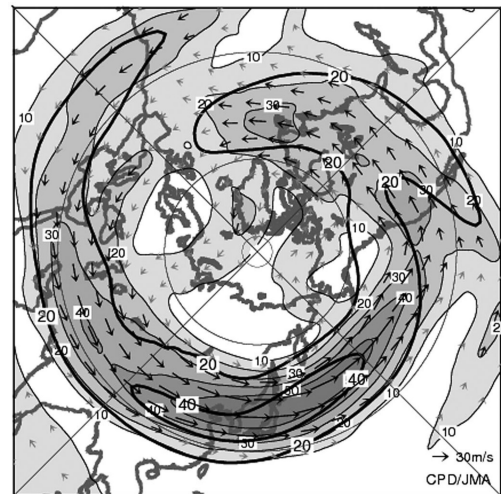
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



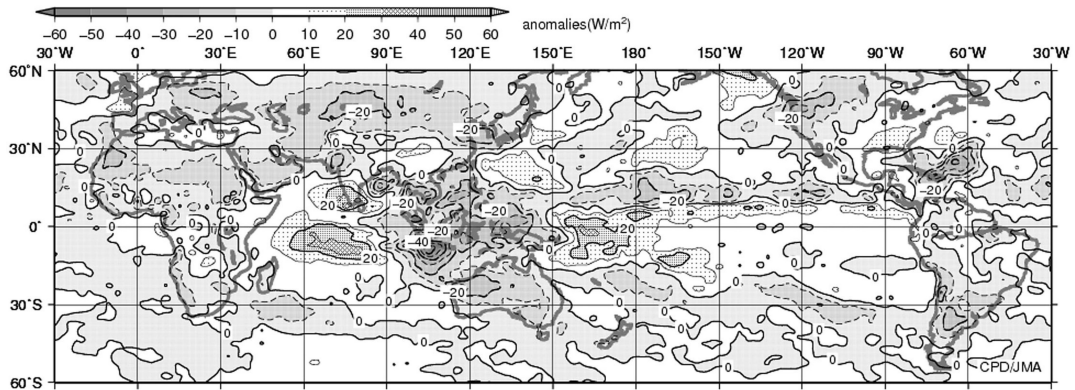
2016年10月の北半球月平均 500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



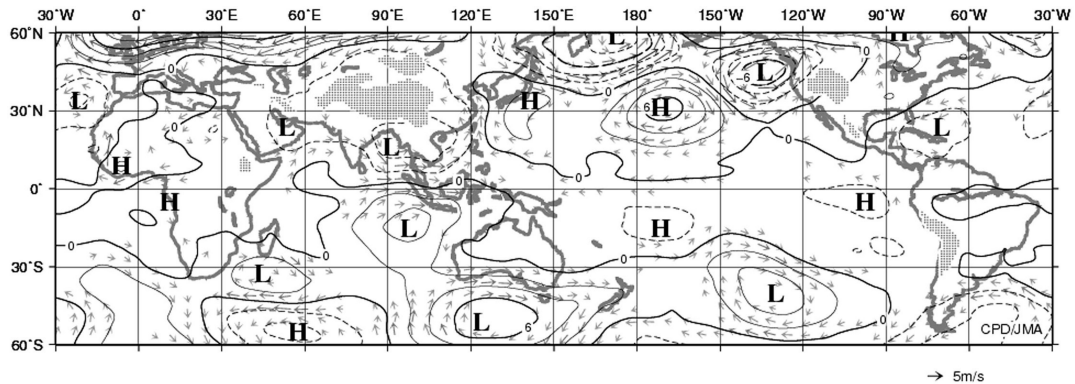
2016年10月の北半球月平均 200 hPa 風速及び風ベクトル

等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。

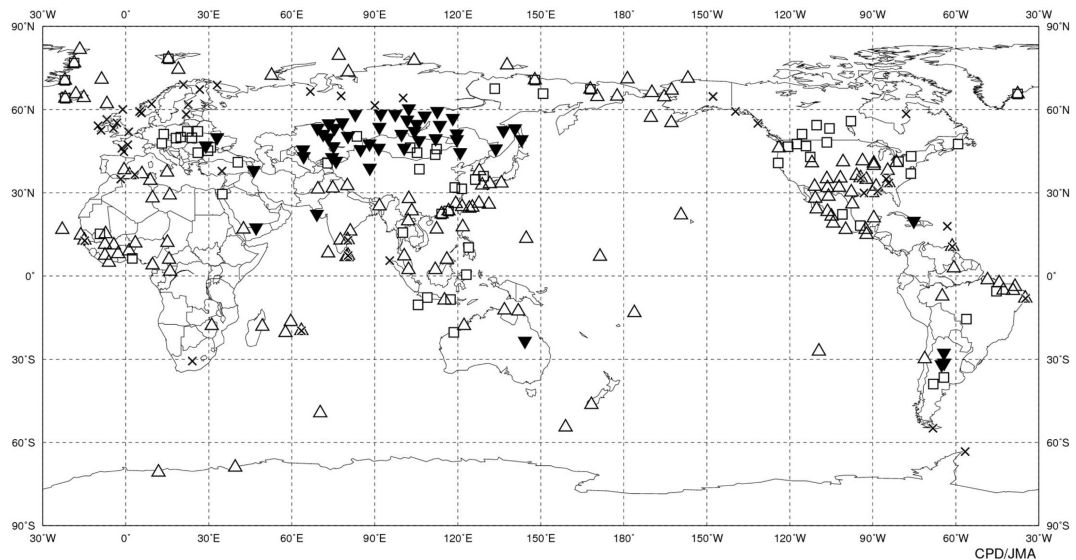


2016年10月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年10月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年10月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。